

年頭のごあいさつ



高萩市長
小田木 真代

「責任ある行政」・ 「市民の理解と協力」の実現へ

あけましておめでとうございます。

皆様には、平成28年の清々しい新春をお健やかに迎えることと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、日本全国に大きな衝撃を与えた「消滅可能性都市」「人口減少社会」といったいわゆる増田レポートに端を発し、国においては「まち・ひと・しごと創生本部」が設置され、地方創生への取り組みが大きく話題となった一年でありました。

また、自然災害も多く発生し、県内においては常総市をはじめとする、県西地域に甚大な被害が発生しており、改めて自然の恐ろしさを感じるとともに、日頃の備えの重要性を実感したところでもあります。

そのような状況の中、本市におきましても、国の地方創生と連動する形で、高萩市創生本部を2月24日に立ち上げるとともに、国の人的支援として4月、総務省よ

り地方創生政策担当部長を招聘し、より具体的な高萩市の創生に向けた取り組みを始め、10月27日に、「高萩市創生総合戦略」を策定し、国へ提出を致しました。

具体的には、本市の地域特性、魅力のPRと知名度向上のために、現在進めております、「花貫フルーツほおずき」などの、農作物の販路拡大や、ブランド化。また、一昨年から実施いたしております、子育て支援の充実など、既存事業の拡充の他、新規事業として創業支援による新しい雇用創出、Uターン者を主なターゲットとした移住政策、空き家等の利活用や公共交通の再編を軸とした人口減少・高齢化に対応したまちづくりであります。本市と致しましては、市民の方々・民間事業者の方々、さらには国・県、及び周辺自治体等と協力、連携をし、積極的かつ効果的に総合戦略に掲げた事業を実施して参りたいと考えております。

一方で、東日本大震災により甚大な被害を受けた本市では、安全安心の確保に向けて、今日まで全力で復旧復興に邁進して参りました。最大の課題でありました市庁舎の再建につきましては、昨年12月に建設工事の請負業者が決定し、復興のシンボルとなる市庁舎の再建が本格的に始まることとなりました。完成は平成29年7月を予定しておりますが、現在、仮設庁舎は4棟に分散しているなど、市民の皆様にも大変ご不便をおかけしている事から、早期完成を目指し、進めて参りたいと考えております。

なお、再建に係る財源につきましては、本市を含め、庁舎が被災した県内6自治体で総務省並びに復興庁に

庁舎の再建に係る財政支援に関する要望活動等を行って参りましたところ、国の財政支援の引き上げをいただき、約2億5千6百万円上乗せをされる事となりました。

また、市庁舎再建が真の復興のシンボルとなるためには、高萩市全体の活力を生み出していく事が重要となります。そのため、何よりも市民が元氣になり、若者が結婚、子育てが安心してできる環境づくりが必要であると思っております。人口減少に、どう歯止めをかけるのかを考えると、若者をひきつける魅力が不可欠であります。そこで、若者の流出阻止の一つとして、本市では昨年、男女の出会いの場を創出するための事業を3回開催し、趣味やものづくり等を通して9組のカップルが成立したとお聞きしております。引き続き、出会い、結婚、妊娠出産、子育ての4つのステージごとの総合的な支援策とともに、本年4月からは定住・移住メニューと組み合わせるような形で進めて参りたいと考えております。

結びに、市長に就任しての2年間、高萩市が元氣になるために、そして、高萩の創生に向けて、邁進して参りました。3年目となる本年も、「愛する郷土たかはぎ発展のために」、私の基本理念であります「責任ある行政」「市民の理解と協力」の実現に向けて、さらに、力強く、前へ進んでいくために、市民の皆様の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年一年が、皆様にとりまして、素晴らしい年になりますよう、ご祈念申し上げます。素晴らしい年になりますよう、ご祈念申し上げます。



12 イルミネーションが 5 駅前を鮮やかに彩る

高萩駅前の年末年始の風物詩。冬の夜空を鮮やかに彩る「光のページェントin高萩」の点灯式が、西口虹の広場で行われました。

点灯式には、仮装したサンタクロースも登場し、点灯の瞬間を見ようと集まった皆さんでカウントダウン。掛声と共に、高萩駅から常陽銀行までの通りが一斉にライトアップされました。点灯後は、ライトアップされた光のページェントの下で、ビンゴゲームも行われました。

イルミネーションは、1月8日(金)まで楽しむことができます。



12 JR高萩駅で 11 保育園児がクリスマスソング

JR高萩駅で、同仁東保育園の園児(5歳児24人)によるクリスマスイベントが行われました。同駅では、七夕に笹への短冊飾りを行っています。駅利用者から「他の季節でも同様のイベントを行って欲しい」との声を受け、今回のイベントを企画。

この日は、園児たちが、駅利用者へクリスマスソングをプレゼント。「サンタが街にやってくる」など元気に歌いました。改札脇には、園児たちの願いが書かれたカードがきれいに飾り付けされました。



11 災害時の環境保全等に係る 24 検査に関する協定

市では、茨城県薬剤師会検査センター(理事長:横濱明)と「災害時等の公衆衛生及び環境保全に係る検査に関する協定」を締結しました。

これは、災害時における水道・井戸などの水質検査や食品中の異物・微生物検査、土壌などの放射能検査を24時間体制で要請できるものです。また、今回の協定締結に伴い、平常時においても市民が井戸水等の検査をする場合は、検査料金を割り引きして頂けることになりました。
[例: 飲用井戸水13項目検査5,000円(旧価格8,100円)]



11 高萩スカウトフィールドで 26 市内小学生が自然満喫

中戸川地内にある高萩スカウトフィールドで、市内小学校4校の児童を対象に「しぜんとあそぼうデイキャンプ2015」が行われました。

この事業は、森での遊びから環境を考えることを目的としたもので、この日は、高萩小学校の6年生が体験プログラムに参加。6~8人のグループに分かれ、ボーイスカウト指導者の手ほどきを受けながら、火おこし体験や木の実などを使った工作、伐採体験などを行いました。また、野鳥・山草を観察するネイチャーウォークを行い、指導者の話を熱心に聞き入っていました。



12 人権問題を考える 6 人権作文発表と講演会開催



防犯に関し熱心に語り掛ける梅本氏(写真上)と作文を発表する高萩中3年の飛田さん(写真左)

総合福祉センターで、高萩市、茨城県北地域人権啓発活動ネットワーク協議会主催による地域人権啓発活動活性化事業が行われました。

中学生人権作文コンテストの日立・高萩・北茨城大会で入賞した3人が作文を発表。金賞を受賞した高萩中の飛田綺奈さんは、「苦しい時も笑顔で行動することで乗り越えられる。互いに助け合い、誰もが過ごしやすい社会をつくっていきたい」と述べ、3人からは感謝、手助け、思いやりなどの大切さが語られました。

講演会では、防犯ジャーナリストの梅本正行氏により「大切な命を守るために」と題し、犯罪被害の実例を交え、被害に遭わないための危機意識の向上の大切さなど、良い習慣が人権を守ると伝えられました。